



「北白川だより」 学校アンケート 臨時号

令和6年9月18日
京都市立北白川小学校
校長 原田 玲子

令和6年度 学校教育目標 『学び合い 高め合い 夢に向かって進む 北白川の子』

平素は本校教育活動の推進のためにご理解・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、保護者の皆様にはお忙しい中、7月の学校アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。学校アンケートは児童・保護者・教職員が共通の意識をもち、連携しながら教育活動を進めるために、それぞれの立場でこれまでの取組について見つめ直す手段の一つです。そして、この学校評価の結果から見えてくる課題について分析し、よりよい教育の在り方について考えていきたいと思っております。

なお、以下の考察では、A群「よくできている」とB群「だいたいできている」を合わせて『できている』、C群「あまりできていない」とD群「できていない」を合わせて『できていない』と大きく2つに分けて分析しています。

[生活面]

		A	B	C	D
児童	① じぶんからすすんであいさつをしている。	64.4%	29.6%	4.6%	1.4%
	② いえやがっこうのルールをまもっている。	53.8%	41.6%	4.3%	0.3%
	③ そうじやかたづけをじぶんでしている。	57.6%	33.2%	8.2%	1.1%
	④ せんせいやかぞくとふだんからはなしている。	67.7%	27.7%	3.3%	1.4%
	⑤ あいてをきずつけないことばづかいではなしている。	53.3%	36.7%	8.2%	1.9%
	⑥ にがてなことにもじぶんからとりくんでいる。	47.8%	36.1%	13.3%	2.7%
	⑦ じぶんにはがんばっていることがある。	78.5%	18.5%	2.4%	0.5%
保護者	① 進んで挨拶するように声かけをしている。	52.5%	43.8%	3.3%	0.3%
	② 家や学校のルールを守るように働きかけている。	52.2%	45.5%	1.7%	0.7%
	③ 掃除や身の回りのかたづけを自分でするようにしている。	19.7%	50.8%	26.8%	2.7%
	④ 子どもの話をしっかり聴くようにしている。	43.8%	49.2%	6.4%	0.7%
	⑤ 言葉づかいに気をつけて話すようにしている。	34.8%	53.5%	10.7%	1.0%
	⑥ 苦手なことにも努力する姿勢を大切にしている。	41.1%	50.5%	7.7%	0.7%
	⑦ 子どもの頑張りを認め、伝えるようにしている。	65.2%	32.4%	2.0%	0.3%
教職員	① 自分から進んで挨拶ができるように働きかけている。	76.2%	23.8%	0.0%	0.0%
	② 家や学校のルールを守る意識を高めるように取り組んでいる。	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%
	③ 自分から進んで掃除や身の回りのかたづけをするように働きかけ、自らも実践している。	76.2%	19.0%	4.8%	0.0%
	④ 子ども達に向き合い、しっかりと話を聴くようにしている。	76.2%	23.8%	0.0%	0.0%
	⑤ 言葉づかいについて指導するとともに、自らも意識している。	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%
	⑥ 子ども達が苦手なことにも前向きに取り組めるように、意識して実践している。	71.4%	28.6%	0.0%	0.0%
	⑦ 子ども達の頑張りを認め、積極的に伝えるようにしている。	76.2%	23.8%	0.0%	0.0%
	⑧ 「学校いじめの防止等基本方針」の内容を理解し、組織的対応に努めている。	81.0%	19.0%	0.0%	0.0%

※回答した教職員の中には、担任以外（学級を担当していない・児童と直接接する機会が少ない）もいることをお知らせください。

【②「いえやがっこうのルールをまもっている。」の項目より】

昨年度、前期から後期に向けて、A 層が約 5%減少しましたが、今年度、9%増加しました。新年度になり、予鈴が鳴ったら教室に戻って準備して「ベル着」を意識すること、その際には、ボールで遊びながら戻るのではなく、しっかり持って戻ること等、ルールやマナーを確認してスタートしたことが要因として考えられます。また、休み時間に多くの教職員の目で見守ることも、可能な範囲で行ってきました。学年別に見ると、特に高学年で A 層の増加傾向が見られているので、学校のお兄さん・お姉さんとして、今後も懂れるような存在であってほしいと願っています。子どもたちも意識して始めることができますので、今後、慣れて意識が低下してしまわないように、教職員で共有・徹底・継続して、取り組んでいきたいと考えています。

【⑤「あいてをきずつけないことばづかいではなししている。」の項目より】

児童の『できている』は、90%でした。昨年度までは、「だれにたいしてもていねいなことばではなしをしている」という項目でしたが、昨年度後期の分析で「ていねいなことば」というのが、もし敬語だと考えていたら、友だちや家族には使わないために「できている」が低くなるのではと考察していました。そこで、意図がより伝わりやすいように「あいてをきずつけないことばづかい」と変えたところ、昨年度後期の結果から『できている』が 11.1%増加しました。A 層に至っては 24.3%も増えていることから、聞き方1つで結果が変わることを実感しました。

今回の自由記述の中にも多く見られましたが、相手を意識してコミュニケーションをとることをご家庭でも大切にしていることが伺えます。一方で、家庭では理解してもらえぬ拙い会話でも、学校には、違う家庭環境・文化・価値観・言葉遣いで過ごす子どもたちが集まっていて、そこでは、たとえ間違っていないでも、言い方、タイミング、シチュエーション等によっては、相手にうまく伝わらないこと、相手の言っていることが納得できないこともあります。しかし、だからこそ、子どもたちにとって、そこに成長するチャンスがあります。

多くの子どもたちと接してきた教職員にとっても、一人ひとりが違うために、同じように伝えたつもりでも、うまく意図が伝えられない場面もあり、出会った子どもの数だけ伝え方があるのだと実感しています。学校では、その都度、その時その場でお互いの伝え方、解釈を振り返りながら、成長を促せる場になればと思っていますので、ご家庭でもお声かけをよろしくお願いいたします。

【⑥「にがてなことにもじぶんからとりくんでいる。」の項目より】

「できている」は昨年度後期と変化はありませんが、A 層が約 7%増加していました。苦手なことは、たとえ大人であつてもなかなか自分から取り組むのは困難なので、苦手なことにも取り組むことができることは、素晴らしいことです。特に、現代社会では、苦手だと感じたら別の物や場所、人、手段等に変えることができる便利な世の中で、ある意味過ごしやすいですが、目に見えない非認知能力(意欲、協調性、粘り強さ、忍耐力、計画性、自制心、創造性、コミュニケーション能力)が育ちにくいとも言われています。もちろん、苦手なことを全て克服しないといけないわけではありませんが、ストレスや避けたいこと全てから目をそらすのではなく、受け止めた上で乗り越えるのか、避けるのか、別の手段をとるのか等、いろいろな経験を積んでいってほしいと思います。

※保護者の皆様からいただきましたご意見についても教職員で共通理解を図るとともに、次回の「学校運営協議会理事会」でも話題にさせていただきます。お忙しい中、アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

[学習面]

		A	B	C	D
児童	① まいにちのがくしゅうのめあてがたっせいできている。	54.9%	36.7%	7.3%	1.1%
	② せんせいやともだちのはなしをよくきいて、かんがえている。	60.9%	30.7%	6.8%	1.6%
	③ じゅぎょうちゅうすすんでじぶんのかんがえをいったりかいたりしている。	51.1%	32.1%	13.6%	3.3%
	④ よんだり、かいたり、けいさんしたりするちからがみについている。	58.2%	32.9%	6.8%	2.2%
	⑤ いえでじぶんからしゅくだいやがくしゅうをしている。	61.1%	26.4%	9.0%	3.5%
	⑥ すすんでどくしょをしている。	60.9%	23.4%	11.4%	4.3%
	⑦ すすんでうんどうをしている。	63.3%	23.1%	10.1%	3.5%
保護者	① 我が子は、学校で学んだことを身に付けている。	54.2%	40.8%	4.7%	0.3%
	② 我が子は、人の話をしっかりと聞いて考えることができています。	38.1%	51.5%	9.0%	1.3%
	③ 我が子は、進んで自分の考えを話すことができています。	34.4%	53.5%	10.7%	1.3%
	④ 我が子は、基礎的な学力(読む・書く・計算する)が身に付いている。	50.2%	42.8%	6.0%	1.0%
	⑤ 我が子は、自分から家庭学習に取り組むことができています。	42.5%	36.5%	19.1%	2.0%
	⑥ 我が家では、本に親しむことができる環境を整えている。	46.8%	34.4%	16.4%	2.3%
	⑦ 我が子は、進んで運動に取り組んでいる。	49.8%	32.1%	15.4%	2.7%
教職員	① 確かな学力が身に付くように授業を工夫して行っている。	71.4%	23.8%	0.0%	0.0%
	② 友だちや先生の話しっかりと聞いて考える習慣がつくように取り組んでいる。	66.7%	28.6%	0.0%	0.0%
	③ 授業中、子ども達が進んで自分の考えを伝えるような授業づくりを心掛けている。	61.9%	33.3%	0.0%	0.0%
	④ 基礎的な学力(読む・書く・計算する)が身に付くように取り組んでいる。	66.7%	28.6%	0.0%	0.0%
	⑤ 家庭学習の習慣が定着するような働きかけを行っている。	52.4%	38.1%	0.0%	4.8%
	⑥ 読書の習慣が定着するような働きかけを行っている。	52.4%	33.3%	4.8%	4.8%
	⑦ 進んで運動できるように工夫したり、声をかけたりしている。	47.6%	38.1%	4.8%	4.8%

【③「じゅぎょうちゅうすすんでじぶんのかんがえをいったりかいたりしている。」の項目より】

昨年度後期と比較して、『できている』が3.5%増加しました。その中でも、特にA層に9.3%の増加が見られました。本項目も、昨年度までの「ひょうげん」から「いったりかいたり」という言葉に変えて質問しているため、直接的な比較はできませんが、自分なりに何らかの考えをもち、発信していることは伺えます。挙手して発表することが全てではなく、まずは自分なりに考えや思いをもつことが大切です。授業で、挙手した人が当たる方法では、挙手した人は考えますが、挙手しない人は考えなくても時間は過ぎてしまいます。そのため、授業では、グループワークや書くこと等、一人ひとりに考えさせるように、また、考えが表出するように工夫しています。自由記述にもありましたが、是非、ご家庭でも、子ども自身で考えたり、感じたり、思いをもったりできるように、質問したり、考える機会をつくったりするように声をかけていただけたらと思います。

【⑥「すすんでどくしょをしている。」の項目より】

「できている」と回答した児童は84.3%でした。昨年度後期と比較すると4.3%の増加でしたが、特に、A層が7.5%増えていました。コロナ禍とメディアの増加で、読書が減る傾向にありましたが、少しずつ向上しています。メディアは、知らず知らずのうちに大量の情報が入ってくるために、脳が無意識に疲れ、判断力・自制力等が落ちるとも言われています。特に終わりのないSNSは、終わるタイミングを見つけられず、思っている以上に時間を使ってしまうこともあるようです。その点、読書は、メディアにない良さもたくさんあります。メディアが駄目というのではなく、読書にも時間を使えると人生がより豊かになると考えています。

○今回のアンケートでは、保護者の皆さんに「お子さまのコミュニケーション力を高めるために意識したり取り組んだりしていること」について書いていただきました。数多くの記述をありがとうございました。一部まとめたかたちになりますが、紹介させていただきます。

※見やすいように分類していますが、重なっている部分、他の分類にもあてはまる部分もあります。ご了承ください。

【機会や場の設定】

- ・周りの大人（いろいろな年代）と話す機会をつくる。話しかけるように促す。
- ・夕食の時に、（向かい合わせに座って）今日一日で楽しかったことを家族で話し合う。
- ・保護者が代わりに言ったり、先回りしたりせず、なるべく本人に話をさせる。
- ・会話が augmenter するような環境をつくる（メディア機器がない等）

【コミュニケーションのスキルアップ】

- ・イベント・習い事・クラブ・仲間を大切にするスポーツ等で、いろいろな人たちと交流する。
- ・新聞を読んだりニュースを観たりして、そのトピックについて自由に意見を交わしたりする。
- ・相手はどのように感じたのか想像させ、どのように働きかけたり行動したりしたらよいのかを考えさせる。
- ・翌日などに想定される状況で必要な挨拶や声かけについて、先に一緒に考えて準備しておく。

【ルールや約束、考え方等】

- ・挨拶、人の悪口を言わない。陰口悪口にはのらない。
- ・自分がされて嫌な事はしない。
- ・良いところは積極的に伝える。
- ・人の話を遮らず、聞き終わってから話す。

【保護者が意識していること】

- ・絵本を毎日読んで、色々な人の気持ちを知ったり話し合ったりする。
- ・一緒に、解決方法やどう伝えれば良いかを考えたりしている。
- ・子どもの不十分な話に、何を指しているか分かってても、こちらから言い換えることはせず、自分で言い換えるように促したり、待ったり、質問したりする。
- ・「これは何だと思う？」「なんでこれはこうなるんだろうね？」とまず子ども自身に考えさせる。
- ・自分がお手本となるように、大きな声で自分から相手の顔を見て挨拶をする。
- ・話を遮らない。
- ・どんな意見、考えがあっても平常心で受け止めて非難をしない。
- ・感謝の気持ちなどは、言わなくても伝わるとせずに、小さな事でも口に出して伝える。
- ・使い方や言い間違いの言葉遣いは必ず直す。
- ・子どもの立場から見たり考えたりしたことを尊重するように心がけると同時に、親の立場から感じたことも意見として伝える
- ・忙しくなると、大人の都合に合わせるのが当たり前のような態度で接してしまうが、大人と同じように、子どもたちの気持ちが大切であることもなるべく伝えたい。
- ・「今日学校どうだった？」と聞くと答えにくいようなので、代わりに、休み時間に何をした？ どの授業が楽しかった？ 給食は何だった？と具体的に質問するようにしている。
- ・親もたくさんの大人と関わって、楽しく生きていることを見せていく。

☆コミュニケーションできる環境や機会をつくるという回答や、大人が手本を見せているという回答が多かったです。質問の仕方1つで、子どもが答えやすいようにするという意見は、授業に通じるものでもありました。子どもの話を先回りしたり、不十分な話を理解してあげたり、大人が補足したりすることは、成長するチャンスを奪ってしまうことがあるために、大人も我慢強く待ったり聞いたりしないといけないかもしれません。今後も、ご家庭と連携して子どもたちのコミュニケーション力をつけていきたいと考えます。